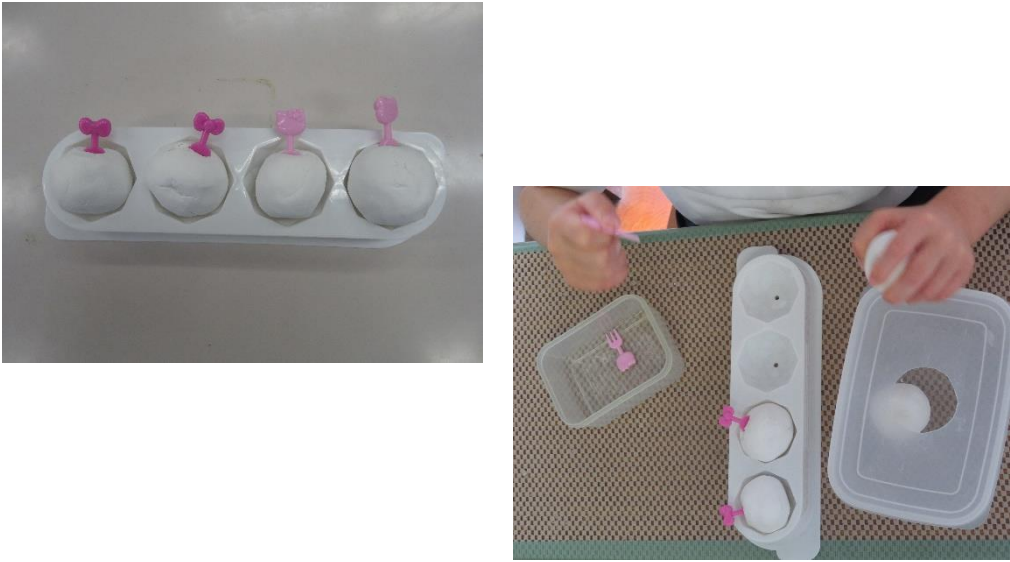

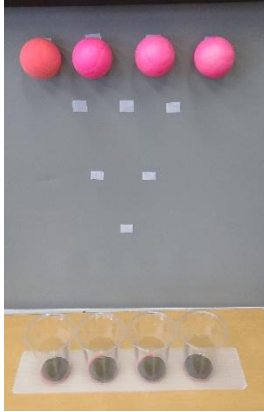
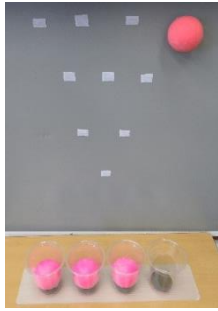

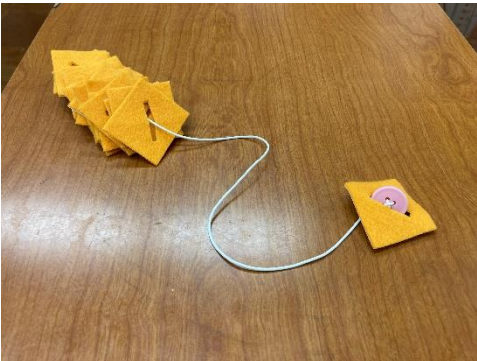




題材名	個別課題学習 「引き抜き課題」
学部	小学部
教科	国語・算数
指導対象 生徒の太田ステージ：I－3	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に両手で取り組むことができる。</li> <li>・指先を使用して引き抜くことができる。</li> </ul>
教材 (写真)	
指導方法 及び 留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 容器から取り出し、粘土からピックを引き抜く。</li> <li>② 引き抜いたピックと粘土をそれぞれの容器に入れる。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個数分の課題容器に入れることで、課題数を明確にする。</li> <li>・摘まみやすいよう、利き手側にピックが向くように置く。</li> <li>・児童の手の大きさに合わせて粘土を作成する。</li> <li>・粘土はより持った感覚が分かるよう、重いものを使用する。(石膏粘土等)</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりと終わりを理解する力。</li> <li>・学習した内容を日常生活で活用する力。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指先を使用し、両手で引き抜くことができた。</li> <li>・課題が終わった後、自分で教員に手渡すことができた。</li> </ul>

題材名	一緒に走ろう！
学部	小等部
教科	体育
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：I－3以上	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールを目指して走る。</li> <li>・教員の少ない支援で活動に取り組むことができる。</li> <li>・児童自身が考えて活動に取り組む姿を促す。</li> </ul>
教材 (写真)	 
指導方法 及び 留意点	<p>&lt;指導方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタート地点で一緒に棒を持つ。</li> <li>・ゴールを目指して走る。</li> </ul> <p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽いと手を離してしまうので、持っている感覚が伝わるような重さにする。</li> <li>・握りやすいように児童・生徒の実態に合わせて棒の太さの調節が必要である。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に向って活動に取り組む。</li> <li>・友達と一緒に活動する。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手を繋がないので、自分で意識して走るようになった。道具があると何をするのか見て分かるので、教員の支援が少なく済み、身体接触でのコースの誘導をしなくてよいので、教員の不必要な接触が無くなった。</li> </ul>


題材名	はらぺこあおむし「プットインカップ」
学部	小学部
教科	国語・算数
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：I—3	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物を操作して、1対1対応ができる。</li> <li>・ ボールを入れていない容器や、重複して入っている容器があることに自ら気付き、修正することができる。</li> </ul>
教材 (写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>[全体像]</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>[提示する時]</p>  </div> <div style="text-align: center;">   </div> </div>
指導方法 及び 留意点	<p>③ 物語のあらすじに沿って、個数分の果物（ボール）と容器を提示する。</p> <p>④ 壁面に貼られた果物の一つずつ容器に入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個数分のボールと容器を対応させるため、その都度使用する分だけを提示する。</li> <li>・ 一度入れたボールを再度出し入れし難いように、容器の周囲と深さを調節する。</li> <li>・ ボールを入れていない容器があることに気付きやすくするため、容器の底には黒色の画用紙を貼る。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象物を注視する力。</li> <li>・ 一つのものに他の一つのを対応させる力。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象物に注目しながら、ボールの一つずつの容器に入れることができた。</li> <li>・ 一つの容器に二つ目のボールを入れた時、重複したことに気付き、空の容器に入れ直すことができた。</li> </ul>


題材名	ボタン通し
学部	小学部
教科	国語・算数
指導対象 生徒の太田ステージ：Ⅰ～Ⅱ	
ねらい	<p>①ひも通しの感覚で、ボタンを引き抜くことができる。</p> <p>②大きめのボタンをフェルトに通すことができる。</p>
教材 (写真)	<p>①ボタンの紐通し</p>  <p>②ボタン通し</p> 
指導方法 及び 留意点	<p>⑤ ゴム紐を付けたボタンをフェルトの穴に入れて引き抜く。</p> <p>⑥ フェルトにボタンをくぐらせる。</p> <p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手の置き場や持ち方の支援や指導をする。</li> <li>・課題が理解できるまでは、ボタンの個数や提示の仕方を工夫する。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指の巧緻性を高める。</li> <li>・両手を使い、衣類のボタンの取り外しができるようにする。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材①は指先を使用し、両手で引き抜くことができた。</li> <li>・教材②は、穴からボタンをくぐらせることで、ボタンに注視し引き抜くことができた。</li> </ul>

題材名	色分け課題
学部	中学部
教科	数学
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅰ-3 ～ Ⅲ-1	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の弁別ができる。</li> <li>・赤と緑のイラスト、写真の色分けができる。</li> </ul>
教材 (写真)	
指導方法 及び 留意点	<p>(Ⅰ-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示するボードは1色</li> <li>・生徒に渡すカードは、色カードまたは、図形のカード</li> <li>・渡されるイラストカード・提示されているボードの色を注視して貼る。</li> </ul> <p>(Ⅱ～Ⅲ-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示するボードは2色</li> <li>・生徒に渡すカードはイラストカードまたは、写真カード</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって学習することができる。</li> <li>・色を分けることができる。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡すカードや提示するボードの色の種類を生徒の実態に合わせて変えることができるため、生徒が安心して課題に取り組むことができた。</li> <li>・提示するイラストや写真を工夫して難易度を変えることで色の弁別ができた。</li> </ul>

題材名	動物と挨拶しよう
学部	中学部
教科	生活単元学習「外国語（英語）」
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅰ－３からⅢ－１	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドアの Knock と Open の言葉と動作を合わせて動詞を学習することができる。</li> <li>・動物の単語と鳴き声を学習することができる</li> </ul>
教材 (写真)	
指導方法 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が”Knock Knock”を発音し、その声に合わせて生徒がドアをたたく。次に”Open”の言葉に合わせてドアを開ける。</li> <li>・教員がドアの中にある動物の名前を発音し、鳴き声を発音しながら生徒に挨拶する。</li> <li>・発音できる生徒は、”Hello”と発音しながら挨拶を返し、コミュニケーションを図る。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力) コミュニケーション能力や主体的に取り組む力、課題への興味から外国語への関心・意欲・態度を身に付ける。</p> <p>(成果) コミュニケーションの一環としてドアを使用したことで、簡単な動作で生徒が主体的に取り組み、興味をもつことができた。また、動作と言語を一致させることで、動詞の学習に繋がった。</p>





題材名	タコの足はどんな長さ(形容詞の学習)
学部	中学部
教科	生活単元学習「外国語（英語）」
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅰ－ⅢからⅢ－Ⅰ	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Long と Short の言葉と意味の違いを、体験を通して学習することができる。</li> <li>・ 紐を引っ張る動きと言葉を合わせて、Long と Short の言葉を覚えることができる。</li> </ul>
教材 (写真)	
指導方法 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が紐を一本ずつ引っ張り、引っ張っている動きに合わせて順番に“Long”や“Short”の言葉を発音する。</li> <li>・ 全て引っ張ることができない生徒は、それぞれ一本ずつ引っ張って2つの言葉を確認する。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <p>主体的に取り組む力や課題への興味から、外国語への関心・意欲・態度を身に付ける。 形容詞の単語を学習し、知識・理解を深める。</p> <p>(成果)</p> <p>動作と言葉を一致させることで、動詞の学習に繋がった。また、紐をタコの足に見立て、足が伸びることで面白いと感じ、楽しみながら形容詞の学習に繋げることができた。</p>

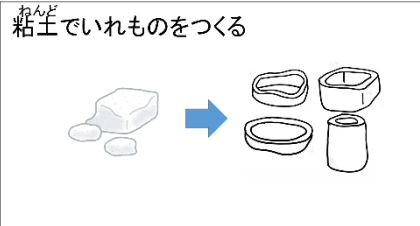

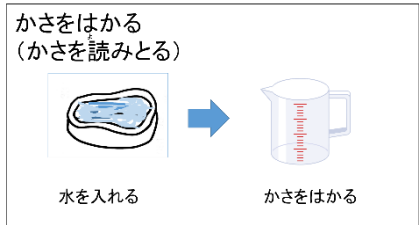
題材名	おいしい おと なあに？～アニメ絵本～
学部	中学部
教科	国語
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅰ－３ ～ Ⅲ－１	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメーションの画面を注視することができる。(Ⅰ－３、Ⅱ)</li> <li>・食べるときの擬声語を、発声することができる。(Ⅲ－１)</li> </ul>
教材 (写真)	 <p>プレゼンテーションソフト</p> <p>切り抜きソフト</p>
指導方法 及び 留意点	<p>&lt;使用教材&gt; GIGA スクール端末、プレゼンテーションソフト、切り抜きソフト</p> <p>&lt;作成方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の写真を撮影する。</li> <li>②切り抜きソフトを用いて、画像を切り抜く。</li> <li>③切り抜いた画像を、プレゼンテーションソフトに貼り付ける。</li> <li>④画像を指定し、アニメーションを選択する。</li> <li>⑤アニメーション「モーショントラック」を選択し、画像を動かす。</li> </ol> <p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒をアニメーションに登場させることで、興味・関心を引き出す。</li> <li>・音声を流すことで、注目を促す。</li> <li>・生徒が興味・関心をもっている食べ物を題材に扱う。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を注視する力</li> <li>・擬声語に関する理解</li> </ul> <p>(成果)</p> <p>アニメーションの画面を注視することができた。 「パクパク」などの擬声語を発することができた。</p>



<p>題材名</p>	<p>会社・仕事とは？（様々な仕事について学ぶ）</p>
<p>学部</p>	<p>高等部</p>
<p>教科</p>	<p>職業</p>
<p>指導対象 生徒の太田ステージ：Ⅳ以上</p>	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある会社や仕事を考える。</li> <li>・会社で働くことの意味を考える。</li> </ul>
<p>教材 (写真)</p>	
<p>指導方法 及び 留意点</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イラストを通して、身近な地域の中に様々な会社や仕事があることを知る。</li> <li>② グループワークを通して、興味のある会社や仕事を考え発表する。</li> <li>③ 会社は何をするところ？ 「遊び・趣味」と「仕事」の違い グループワーク</li> <li>④ 仕事として、やってみたいことを考える。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なところにも「働いている人」「会社」があることに気づくよう支援する。</li> <li>・グループワークのなかで自由に意見を言えるように留意する。</li> </ul>
<p>成果</p>	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やってみたい仕事や興味のある仕事について考える力。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある仕事を考え、発表することができた。</li> <li>・仕事として、やってみたいことを明確にすることができた。</li> </ul>

題材名	摂食指導に関する三種の神器
学部	全学部
教科	摂食指導
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：全ステージ対象	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食機能を各機能（捕食・咀嚼・食具）から向上させる。</li> <li>→食事をより安全に、おいしく、楽しく食べることができるようになる。</li> </ul>
教材 (写真)	 <p>The image shows three items used in feeding instruction. On the left is a black whistle with a blue speech bubble containing the character '笛' (whistle). In the center is a black pen with a blue speech bubble containing the character 'ペン' (pen). On the right is a glass dish containing sliced squid (ika) with a blue speech bubble containing the character 'イカ' (squid).</p>
指導方法 及び 留意点	<p>笛・・・とにかくきれいな音が出るように。吹き口を徐々に小さくしていくと段階的。最後は拭き戻しのような肺活量が必要なものにしていく。</p> <p>咀嚼・・・感染症対策を徹底した上で、スルメイカ等を嚙む練習。 注意：適切な指導になるように指導計画は必要。</p> <p>食具・・・手や指を使う教材は全て通ずる。教材の握り方、指の使い方を意識する。 握る→つかむ→つまむ</p>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食機能全般の向上。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食機能の向上</li> </ul> <p>食べこぼしなし→楽しくおいしい給食の時間へ。</p>

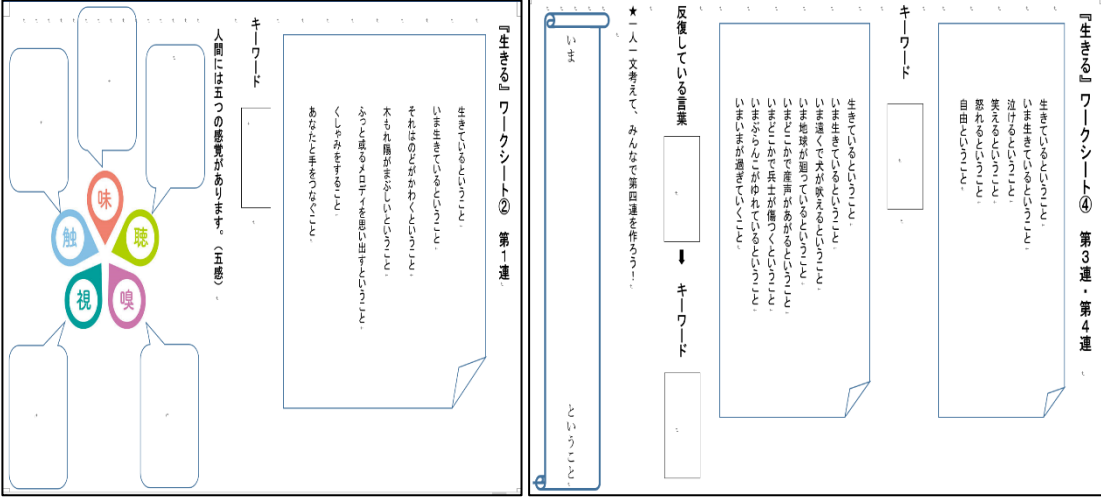
題材名	「キャタピラーレース」
学部	高等部
教科	保健体育 体づくり運動
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅲ－１以上	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よつばい運動をすることができる。</li> <li>・火災時の避難姿勢に慣れる。</li> </ul>
教材 (写真)	
指導方法 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロール状につなぎ合わせた段ボールを活用する。中に入り、よつばいで進む。</li> <li>⇒太田ステージⅣ以上の生徒 よつばい歩行を火災避難時の姿勢と結び付けて指導することで、体育的な要素と防災の要素を学ぶことができる。レース形式にするなど、勝敗を意識できるようにする。</li> <li>⇒太田ステージⅣ以下の生徒 よつばい歩行を体験するきっかけとして活用する。ロールの直径を長くすることで、生徒と支援者が二人で入り、支援しながら行うこともできる。</li> <li>・段ボールに切り抜きを入れることで、よつばい歩行中に前が見えるようにした。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四肢で身体を支える力</li> <li>・火災発生時の避難姿勢の理解</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災時の避難姿勢とよつばい歩行を結び付けて理解することができた。</li> <li>・俊敏な動きで意欲的に取り組むことができた。</li> </ul>

題材名	たくさん入れよう ～「かさ」の学習～
学部	高等部
教科	数学
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：IV以上	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容積「かさ」を体験的に学習することで、「かさ」の数値や単位を修得しやすくする。</li> <li>・楽しみながら学習することで、学習意欲を高める。</li> <li>・「かさ」の単位を覚え、目盛りを読み取ることができるようになる。</li> </ul>
教材 (写真)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙粘土で好きな形の容器を作る。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">説明スライド</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">活動の様子</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>ねんど 粘土でいれものをつくる</p>  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>かさはかる (かさを読みとる)</p>  <p style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <span>水を入れる</span> <span>かさはかる</span> </p> </div>
指導方法 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容器のイメージをイラストで示し、あらゆる形を自由に考えるように指示した。</li> <li>・水をいっぱいになるまで入れ、生徒が計量カップに移して「かさ」を読み取る。</li> <li>・自立する形でなくてもよく、粘土がやわらかいので手で支えればよいことを伝えた。</li> <li>・数値と単位をその場で声に出しながら読み取り、報告するように指示した。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような形が「かさ」を大きくできるのかを考える思考力。</li> <li>・どれくらいの「かさ」が何 mL 程度なのかを感覚的に理解する力。</li> <li>・あきらめず最後まで取り組む、継続する力。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人と数値を競う形にしたことで、より意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・制限時間ぎりぎりまで最大の「かさ」を目指して熱心に取り組むことができた。</li> <li>・「かさ」を正しく読み取り、正しく単位を用いて表すことができた。</li> </ul>

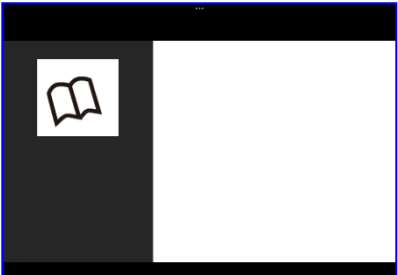


題材名	「キックベース」
学部	高等部
教科	保健体育 球技
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅲ－１以上	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間とチームの勝利に向けて効率の良い作戦を話し合う重要性や、自分の意見を仲間に伝える力や他者の意見を受け入れる力を育む。(協調性)</li> <li>・「投げる」「蹴る」「走る」の３要素を体験し、自身の運動機能の向上を図る。</li> </ul>
教材 (写真)	<p>[攻撃・得点のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッカー(攻撃)は蹴った球を守備チームが捕球し全員が集まって座ったら走塁をストップしてホームへ戻ってくる。</li> <li>・一塁→1点 二塁→2点 三塁→3点 一周→4点 アウト→0点</li> <li>・守備者が集まって座るまでに攻撃は何点、得点をとれるか競い合う。</li> </ul> <p>[守備のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蹴った球を捕球した人の周りに集まってアウトと言って座る。※ピッチャーも集まる。</li> <li>・キッカーが蹴った球を直接補給したら即アウトとなり0点となる(守備者がキッカーの蹴った球をバウンドせず直接捕球した場合は集まらなくてよい)</li> <li>・フィールドのアウトゾーンに球が入ったら即アウトとなり0点となる。</li> </ul>
指導方法 及び 留意点	<p>[試合の流れ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トーナメント戦とする。</li> <li>・じゃんけんをして先攻、後攻を決める</li> <li>・先攻チームが一巡したら後攻チームが一巡する。(2回の表裏まで)</li> <li>・各チームからピッチャーを選出する</li> <li>・怪我や事故を防ぐため事前に注意喚起と障害物があった際は障害物の周りにコーンを置いて立ち入り禁止ゾーンを作る。</li> <li>・サッカー経験者もいるためアウトゾーンを設定し、力の均等を図った。</li> <li>・はじめてキックベースを経験する生徒もいたため簡易ルールを設定した。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間とチームの勝利に向けて効率の良い作戦を話し合う重要性や、自分の意見を仲間に伝える力や他者の意見を受け入れる力</li> <li>・運動機能の向上</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協調性を身に付ける体験ができた。運動機能の向上に結び付けることができた。</li> </ul>

<p>題材名</p>	<p>外国の文化について調べよう</p>
<p>学部</p>	<p>高等部 1 年</p>
<p>教科</p>	<p>生活単元学習 外国語</p>
<p>指導対象 児童・生徒の太田ステージ：IV～V</p>	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に情報を収集し、まとめることができる。</li> <li>・友達の発表を聞いて情報を共有することができる。</li> <li>・タブレット端末の操作に慣れることができる。</li> </ul>
<p>教材 (写真)</p>	<p>生徒がタブレット端末を用いて作成した資料</p>
<p>指導方法  及び  留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の調べる内容（首都、観光地、料理）を三つ設定し、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>・調べ学習の際、関係のないことを調べてしまう生徒がいるので、初めにタブレット端末を授業中に使う際のルールを生徒自身が決めることで責任感をもたせる。また、机間指導の際に、随時指導する。</li> </ul>
<p>成果</p>	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を引き付け、主体的に情報を収集・整理し、友達に伝える力</li> <li>・友達の発表を聞いて、考えを形成する力</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を引き付け、生徒が主体的に情報を収集することができた。</li> <li>・生徒が主体的に考え、整理する活動ができた。</li> </ul>



題材名	詩『 生きる 谷川俊太郎 』
学部	高等部
教科	国語
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：千葉福祉園の生徒（Ⅳ）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読を繰り返すことで、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知識・技能）</li> <li>・各連の構成に沿って自分の考えを表現することができる。（思考・判断・表現）</li> <li>・自分の経験を言葉で表現しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）</li> </ul>
教材 (写真)	<p>ワークシート</p> 
指導方法 及び 留意点	<p>&lt;指導方法&gt;      範読の際には、漢字の正しい読みや連ごとのまとまりが意識できるよう配慮する。      各連のキーワードを定め、そこから考えを発展させていく。</p> <p>各連のキーワードに関連する言葉や出来事を自分の経験の中から見つけ、その後の創作活動へつなげる。</p> <p>&lt;留意点&gt;      生徒の実態に応じて、辞書引きやICT機器の活用などアプローチを変えていく。</p>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <p>一文の中に含まれる言語情報から、場面を具体的にイメージすることができるようになる。自分の考えや経験したことを簡潔な言葉で表現することができるようになる。</p> <p>(成果)</p> <p>第四連の学習においては、詩で表現されている情景を写真で提示することにより、生徒自身が創作する際にも具体的な表現を引き出すことができた。</p>



題材名	地図記号クイズ
学部	高等部
教科	生活単元学習
指導対象 生徒の太田ステージ：Ⅳ以上	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関係の深い施設の地図記号が分かる。</li> <li>・地図記号や生活に関係の深い施設に興味をもつことができる。</li> </ul>
教材 (写真)	<p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p>
指導方法 及び 留意点	<p>①ホワイトボードを配布し、答えが分かったらボードに書くよう説明する。</p> <p>②地図記号を表示する。</p> <p>③ヒント（写真）を表示する。</p> <p>④答えを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かった段階で書き直してもよい。</li> <li>・集団の実態に応じて得点制の活動にしてもよい。</li> </ul>
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を読み取る力。</li> <li>・学習した内容を日常生活で活用する力。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関係の深い施設の地図記号を覚え、公共施設を地図の中から探すことができた。</li> <li>・地図記号や生活に関係の深い施設に興味をもち、覚えようとすることができた。</li> </ul>

題材名	Arrows を使った CM づくり		
学部	高等部		
教科	音楽		
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅲ－２以上			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果音の効果について考える</li> <li>・様々な音楽の特徴に気が付く</li> <li>・創作の楽しさを知る</li> </ul>		
教材 (写真)			
	1 効果音により箱の中身が変わって感じる体験	2 ビデオエディター使用	3 オリジナル CM 20 秒
指導方法 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予め、本校独自の CM 動画を用意しておく。慣れるまではビデオエディター内の BGM (42 曲ほどある) から曲を選択し挿入する。</li> <li>・操作に慣れてきた生徒には、BGM 探しのアプリを使用し、更にたくさんのイメージの中から選択できるようにする。</li> <li>・パソコン操作に得手・不得手があるため、簡単な操作で制作できる活動から取り組む。デジタルサポーターの支援も得ながら、操作自体の問題でつまづかないように配慮する。</li> </ul>		
成果	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想の違いによって、映像の雰囲気が変わることを通し、効果音の効果に気づく。</li> <li>・自分の表現を楽しむ。人の表現を楽しむ。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ画像でも、音楽によって伝わる雰囲気の変化を感じることができた。</li> <li>・お互いにおすすめの音楽を紹介しあう姿が見られた。</li> </ul>		

題材名	皿作り用石膏型 改良版
学部	高等部
教科	作業学習（陶芸班）・美術
指導対象 児童・生徒の太田ステージ：Ⅲ－２以上	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販の石膏型を加工し、生徒が使いやすい道具にする。</li> <li>・粘土の板を型の上にかぶせて皿を成形することができる。</li> </ul>
教材 (写真)	 <p>市販の型には「縁」があるが、きれいに作りにくい。</p> <p>「縁」を削り落とした</p>  <p>作りやすさが向上した</p> 
指導方法 及び 留意点	<p>〈指導方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スラブローラーを使い粘土を板状に伸ばす。</li> <li>・石膏型の外周に沿って板状の粘土を切り取る。</li> <li>・切り取った粘土を石膏型の上に乗せ、中心を合わせる。</li> <li>・優しく粘土を押し当てて皿の形に成形する。</li> </ul> <p>〈留意点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ろくろに石膏型を乗て作業すると成形しやすい。</li> <li>・粘土の中心にくぼみをつけると乾燥時の反り返りが軽減する。</li> <li>・粘土を型に押し当てる際に縁をつぶさないように気を付ける。</li> </ul>
備考	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具や補助具を活用して制作に取り組むことができる力。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形活動に苦手意識のある生徒でも形の整った器を作ることができた。</li> </ul>